簡潔にイスラム法を学ぶ

図解付き崇拝行為に関する諸規定

斎戒

斎戒(サウム）の章

1. 斎戒（サウム）:その規定と徳

斎戒（サウム）:その規定と徳/斎戒の徳/ 斎戒の命令に潜む知恵/ 斎戒の為の規定/ 斎戒の義務の条件/ ラマダン月の斎戒/ ラマダン月の斎戒の幾つかの徳/ ラマダン開始を知らせること/ ラマダン月に斎戒を解除すること/ ラマダン中のサラフ（イスラーム初期の預言者の同胞）の言行

2. 斎戒の柱、許可、奨励と忌まわしい行いとそれを無効にするもの

斎戒の柱、許可、奨励と忌まわしい行いとそれを無効にするもの: 斎戒の支柱/ 斎戒中に許可される行動/斎戒中の推奨行為/斎戒中に忌まわしい行為/斎戒を無効にする事柄

3. ラマダン月にサウムを解くことが許可される理由事項と逃したサウムの支払い

ラマダン月にサウムを解くことが許可される理由事項と逃したサウムの支払い:ラマダン月にサウムを解くことが許可される理由事項/逃したサウムの支払い(日数を斎戒する）

4. 義務ではない（任意の）サウム

義務ではない（任意の）斎戒:任意の斎戒が奨励される日/斎戒が禁止される日と斎戒の忌まわしい行為/指示

---

5. カドルの夜（みいつの夜）

カダル（ライラトゥル・カドル）:何故カドル（力）の夜と名付けられたか/ライラトゥル・カドルの位と徳/ライラトル・カドルの日付

け/ライラトル・カドルの推奨行為

6.イァテイカーフ（お籠り）

イァテイカーフ：イァテイカーフの許可性/イァテイカーフの規定/イァテイカーフを行う条件/イァテイカーフの期間/ラマダンの最後の10日間のイァテイカーフ/イァテイカーフの間に許可される行為/イァテイカーフを無効にすること

第1課 斎戒（サウム）：その規定と徳

目 次

言語的な意味:

特定の物の消費を避けることです。

イスラム法においてのサウムの意味:

偉大なアッラーの奉仕と服従として暁から日没まで、飲食や性交などを控えることです

サウムの徳

｛信仰する者よ，あなたがた以前の者に定められたようにあなたがたに斎戒が定められた。恐らくあなたがたは主を畏れるであろう。

（斎戒は）定められた日数である。だがあなたがたのうち病人，または旅路にある者は，後の日に（同じ）日数を（斎戒）すればよい。それに耐え難い者の償いは，貧者への給養である。すすんで善い行いをすることは，自分のために最もよもしあなたがたがよく（その精神を）会得したならば，斎戒は更にあなたがたのために良いであろう。ラマダーンの月こそは，人類の導きとして，また導きと（正邪の）識別の明証としてクルアーラが下された月である。それであなたがたの中，この月（家に）いる者は，この月中，斎戒しなければならない。病気にかかっている者，または旅路にある者は，後の日に，同じ日数を（斎戒する）。アッラーはあなたがたに易きを求め，困難を求めない。これはあなたがたが定められた期間を全うして，導きに対し，アッラーを讃えるためで，恐らくあなたがたは感謝するであろう.｝
［雄牛章183節ー185節］

サウムには幾つかの膨大な利点と沢山の報酬があります。その位を絶賛するため全能のアッラーはサウムを自分自身に結びつけました。アブーフライラが伝えたクドゥシーハディースによると預言者（彼に平安あれ）は述べました。「：本当にアーダムの子（人間）の全ての行いは、その10倍から700倍の善行として倍増させられる。偉大かつ荘厳なるアッラーは仰った：「但しサウムは別である。それはわれのためのものであり、われはそれに（特別な）報奨を授ける。（というのもサウムする者は）われゆえにその欲望と食事を放棄したからである。そして（サウムする者の）口臭は、アッラーの御許において麝香の香りよりも芳しいものなのだ。（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承）」（合意）

サウムの啓示に潜む知恵

偉大かつ荘厳なアッラーへの服従として彼の規定に従うためです。全能のアッラーは仰せられました　{恐らくあなたがたは主を畏れるであろう}
[雄牛章183節]

サウムは人に困難に耐える訓練を施し、自らを規律づけることを教えてくれます。

サウムは、同胞の痛みを分かち合う心を養います。飢えを感じる時　心は優しくなり貧者や困窮者への善行や奉仕へといざないます。

消化器官を過労から休息させ、その活力と回復を促します。

サウムに関する規定

至高のアッラーの仰せられるサウムは2種類あります。

1．義務のサウム

義務のものにも2種類があります。

アッラーのしもべに初期から義務とされたサウム。ラマダン月のサウムはイスラの五柱の一つです。

アッラーのしもべ自らによって課せられた義務のサウム。例えばサウムは契約破棄や不平等の結果の罪滅ぼしのためです。

2．奨励されるサウム

崇高で壮大なアッラーとアッラーのみ使いに推奨された全ての種類のサウムを含みます。この例として月曜と木曜日のサウム、月3日のサウム、ムハラム月10日目、ズー・アル＝ヒッジャ月の初めの10日間とアラファの日です。

斎戒の義務の条件

1．イスラーム:サウムは不信仰者には義務ではありません

2．　成人：サウムは子供には義務ではありません。しかしサウムに親しむために可能であればサウムを命じたり奨めることができます

3.理性が健常な者：サウムは障害者には義務ではありません

4.能力；サウムを遂行不可能な者には義務ではありません

ラマダン月のサウム

ラマダン月のサウムは至高のアッラーに命じられたしもべへの義務であり、イスラムの柱です。

至高のアッラーは仰せられました：　{信仰する者よ，あなたがた以前の者に定められたようにあなたがたに斎戒が定められた。恐らくあなたがたは主を畏れるであろう}
[雄牛章１８３節]

預言者（彼に平安あれ）は述べました：　イスラムは5柱から成ります。そして彼はラマダン月のサウムについて言いました　ブハーリの伝承.

ラマダン月の斎戒の幾つかの徳

1.ラマダン月にサウムを行い、夜の礼拝に努めることで過去の罪が許されます。預言者は述べました。：信仰心と、ご褒美ゆえの努力をもってラマダーン月にサウムする者は、それ以前に犯した罪を赦される　（合意）また預言者はこう述べました：　信仰心と、ご褒美ゆえの努力をもってラマダーン月に礼拝（サラー）する者は、それ以前に犯した罪を赦される　（合意）

2.荘厳なる夜（ライラトル・カドル）に礼拝する者は、それ以前に犯した罪を赦されます：信仰心と、ご褒美ゆえの努力をもってライラトルカドルに礼拝する者は、それ以前に犯した罪を赦される　。（合意）

3.ラマダーン期間中の小巡礼（ウムラ）は預言者とハッジを行った者と報酬に関して同等です。預言者は述べました。: ラマダーン月のウムラは、私と一緒のハッジと報酬に関して同等です（ムスリムの伝承）

4.　ラマダーン期間中は、天国の諸門は開け放たれ、地獄の諸門は閉じられます。そしてシャイターンはかせをつけられて拘束されるのです。預言者は述べました:　ラマダーン月が来ると、天国の諸門は開け放たれ、地獄の諸門は閉じられる。そしてシャイターンはかせをつけられ（て拘束され）るのだ. （合意）　故にムスリムはアッラーに懺悔し、禁じられた事柄を避けるよう努め、引き続きアッラーのご慈悲と報酬を願います

5.　ラマダーン月はクルアーンが啓示された月です。従ってクルアーンを読みましょう:　{ラマダーンの月こそは，人類の導きとして，また導きと（正邪の）識別の明証としてクルアーンが下された月である.}［雄牛章185節］

6.ラマダーン月は寛大さと慈悲と慈善の1ヶ月です。イブン・アッバースは言いました　預言者は男性の中で最も気前が良く、ラマダン月には更に気前が良かったです。本当に預言者はジブリールに出会った際に、善行に関して言えば吹き込む風よりもより良く、より優しかったです。　（合意）

ラマダン月の始まりの合図

ラマダン月の開始は新月の確認によって始まります。シャーバン月の9日目の日没後に新月が確認されると、ラマダンの開始を示唆します。しかしながら30日目の夜の日没後に三日月が曇り、または塵または空中の煙の為に観察されなかった場合は、シャーバン月は30日と数えられます。預言者は次のように述べました: 三日月が見えたら斎戒し、それが見えたら斎戒を解きなさい、しかしそれが視界から隠れたら、30数えなさい.（合意）

ラマダン月にサウムを解くこと

ラマダン月に斎戒を解くことは禁止で重大な罪です。したがって正当な理由なしに斎戒を解き、アッラーへの懺悔を拒否した誰もが、その年に斎戒したとしても、その一年の間の斎戒は受け入れられないでしょう。これは預言者の言行によるものです。: 誰もが全能のアッラーに与えられた正当な理由なしに１日の斎戒を解いたとしたら、1年の斎戒は罪の償いとして十分ではないでしょう（アブ・ダウードの伝承）

斎戒を解いたことによる罰は重大です。アブ・ウママ・アルーバヒリーの伝承によると、かれは次のように預言者が述べるのを聞きました:　睡眠の経過中に2人の男がやって来て私の上腕部を抱え、私達は険しい山へと向かいました。その男たちは私にそれに登れと頼みましたが、私はできないと伝えました。彼らは私に容易にすると言いました。私がその山に登り、その真ん中に到達すると、大声が聞こえました。私は「あの声は何ですか？」と尋ねました。彼らは「それは地獄の住人の遠吠えです。」と言いました。そして私は違う場所へと連れていかれ、私は大腿後筋から吊るされ、口角が裂け、血がしたたっている人々を見ました。私は「彼らは誰ですか？」と尋ねました。彼らは、「彼らは斎戒を解く適切な時間の前に斎戒を解いた人々です。」と言いました.

（ アブ・ダウードの伝承.）

ラマダン中の（初期の預言者の同胞）サラフのマナー

ムハンマド（彼に平安と祝福あれ）はサラフ（初期の預言者の同胞）の見本でした。

イブン・アル・カイーム（アッラーの御慈悲がありますように）は述べました。ラマダン月の預言者の指導の1つは：ラマダン月にジブリールが預言者と共にクルアーンの修正をしたように全能のアッラーへの崇拝の強化です。そして預言者は最も寛大で、特にラマダン月は更に寛大でした。預言者はジブリールに出会ったときは涼しい風よりも更に寛大でした。（ザードゥル・マアード・フィ・ハディーカイリル・イバード（2/30））

ラマダン中のサラフ（初期の預言者の同胞）とクルアーン

ラマダン月のように好まれる時、特にライラトル・カドル（荘厳なる夜）を待つ夜は、この月のこの時の利点を得られるように、クルアーンの朗誦を増やします。

ラマダン月の最初の夜は、イマーム・ブハーリ（彼にアッラーの慈悲がありますように）は同胞を集めて、礼拝を先導していたものでした。彼は一つのラクア（アッラーへの礼拝を捧げる間のムスリムによる特定の動きの単位）に20節を朗誦し、クルアーンの全ての章を終わらせるまで続けました。またクルアーンの半分から3分の1をスフール（夜明け）前の時間に朗誦し、毎晩サウムを解く時間までにクルアーンの全ての章を終わらせようとしました。彼は次のように言ったものでした。「クルアーン朗誦を終了するたびに、アッラーが受け入れて下さるドゥアー（祈願）があります。」（シファト・アル－サフワ（4/170））

シャーフィーの伝承によると預言者はラマダン月はサラート中に朗誦する以外に、60回クルアーンの全ての章を朗誦し終えました。（シファト・アル－サフワ（5/255））

サラフ（初期の預言者の同胞）とラマダン月に夜の礼拝に立ち上がること

サーイブ・イブン・ヤズィドの伝承によると彼はこう述べました；オマン・イブン・アル－カタッブの時代は、ラマダン中に20ラクアの礼拝でクルアーンの200節を朗誦していたものでした。。オスマン・イブン・アッファンの時代は、礼拝に立つ間の時間の長さの為に、自分自身を杖で支える必要がありました．（その章は100より多いという意味です。スナン・アル－クブラのアル・－バイハキ（2/699）

アブドゥッラ・イブン・アビ・バクルの伝承によると「私は父がこう言うのを聞きました； ラマダン中にサラートを終えた時には、使用人はファジャールの時間が来るのを恐れて、急いで食事を準備したものでした．（ムワッタ・アル－イマム・マリク－アブドゥル・バキ（1/116））

ナフィはイブン・ウマルがラマダン月の間に家でサラートを行っていたと伝えました； 人々がモスクから去ると、彼は水の容器を持って預言者のモスクに出向きました。ファジャールのサラートの後までモスクを去ることはありませんでした．（スナン・アル－クブラのアル・－バイハキ（2・699）

第2課

柱、許可、奨励と忌まわしいサウムの行動とそれを無効にするもの

目 次

サウムの支柱

第1の柱：日没から夜明けまでのサウムを無効にするものからの棄権

至高のアッラーは仰せられました：｛また白糸と黒糸の見分けられる黎明になるまで食べて飲め。その後は日暮れまで斎戒を全うしなさい｝［雄牛章:187節

「白糸と黒糸」上記の節で述べられているのは、昼間の明るさと夜の暗さです

第2の柱:ニーヤ（意図）

これは飲食や他のサウムを無効にする全ての形態から慎む者は、全能のアッラーのみを崇拝する目的で行うべきという意味があります。預言者は述べました。；　全ての行動はニーヤによって判断されるべきで、全ての人間の行動に潜むものは、特定のニーヤです．（合意）

サウムのニーヤ（意図）

サウムのニーヤは夜明け前の夜にされなければなりません。しかしながら、これ（夜明け前の夜のニーヤ）は任意のサウムの場合は義務ではありません。従ってもしサウムを無効にする行いがなければ、昼間に任意のサウムのニーヤを考えることが可能です。これはアーイシャ、信者の母、（彼女にアッラーが悦ばれますように）のハディースによるものです；　預言者はある日入って来て、こう述べました。「何か食べる物はありませんか？」私達はここにはありませんと答えました。すると彼（預言者）は言いました。：「したがって私はサウムを行います（ムスリムの伝承）

サウム中の許可される行為

1.入浴やプールに座って、冷やします.

2. 自分の唾や粘液を飲み込みこと.

3.　それのどれもが喉に滑らって入らないことを条件に味見をすること　.

4.空気清浄剤の香り、またはどの物質の匂いも嗅ぐこと

ミスワークの使用

午前と午後に、ミスワークが濡れていても乾燥していてもサウムをしている者がミスワークを使用することは許可されています。しかしながら、ミスワークを使用中にはその1分が喉に入らないように気をつけなければなりません。何故ならそうなった場合はサウムが無効になるからです。

サウムの間の推奨行為

1．スフール（日の出前の食事）を食べて、可能な限り日の出まで延期すること

預言者は述べましたe:　スフール（日の出前の食事）を食べなさい。本当にサフールには祝福があります．（合意）

食品の量、一滴の水でさえ、スフールには十分です。これは高貴な預言者のハディースによるもので、彼は述べました:　スフールは祝福ですので、たった一滴の水だと思っても、切り捨ててはいけません。本当に全能のアッラーとかれの天使はスフールを取る者達へ礼拝を捧げます．（アフマドの伝承）

スフールを遅らせることが推奨されます。ザイド・イブン・サービットは述べました；我々はある日預言者とスフールを取りました。そして座っていたところからサラートへと向かいました。」アナス・イブン・マーリクは言いました：「あなたの食事とサラートとの両方の間の時間の範囲はどのくらいですか？？」彼は言いました。「聖なるクルアーンの50節を朗誦するくらいの長さ．（合意）

アザーン（礼拝への呼びかけ）の間の飲食

もし飲食の間に礼拝への呼びかけ（アザーン）が聞こえたら、飲み終えるまで、飲み続けることが許可されます。アブー・フライラの伝承によると預言者は次のように述べました:　手の中に（水のカップ）容器がある間に、もし礼拝への呼びかけを聞いたとしたら、それの必要性を満たすまで、それを置くべきではありません（アブ・ダウードの伝承）

学者はこのハディースは夜明けの外観に疑問を持つ者に適していると説明しています。しかし、もし夜明けの外観に確信があれば、飲食するべきではありません。もし飲食すれば、特に夜明けの外観を確かめた後に、サウムは無効になり、そのようなサウムの日数を行うことが義務となります

2．サウムを解くよう急ぐこと

それは日没が確認されたらすぐにサウムを解くことが奨励されています。預言者は述べました。:　人々は急いでサウムを解除する時はいつでも祝福に恵まれないことはありません（アブ・ダウードの伝承）

同様にイフタール（サウムを解く時の食事を新鮮なナツメヤシ、もしくは新鮮なものがない場合は乾燥ナツメヤシを摂ることが奨励されます。また奇数のナツメヤシを食べることも奨められます。アナス・イブン・マーリクは述べました。預言者はサラート（礼拝）の前に新鮮なナツメヤシでサウムを解除していたものでした。もし新鮮なものがなければ、乾燥のナツメヤシ、さもなければ、水を一口（ハッサ）飲みました。（ティルミズィーの伝承）もし全ての努力にも関わらず、これらのひとつも見つからず、もしサウムを解除する意向があれば、それで十分です。

3.サウムを解く時のドゥアー（祈願）

預言者はサウムを解く時に次のように述べました：　喉の渇きは癒され、血管は潤い、そしてアッラーの思し召しならば（サウムの）報奨は確定しました．（アブ・ダウードの伝承）

預言者はまた述べました：　本当にサウムをする全ての者へ、サウムを解く時に行う礼拝は拒絶されません　（イブン・マジャの伝承）

間違ってサウムを解いた者

もし誰かが日没の前もしくは夜明けにまちがって飲食してしまい、それが間違いだったと気が付きました。そのようなサウムの日数は義務ではありません。何故なら、至高のアッラーは次のように述べたからです：　{あなたがたがそれに就いて誤ることがあっても，罪ではない。だがあなたがたの心に悪い意図のある場合は別である。アッラーは覚容にして慈悲深き御方であられる}［部族連合章:5節］

預言者は述べました。：　全能のアッラーは謝りと忘却と強勢によって犯した私の共同体の罪を和らげました。．（イブン・マジャの伝承）

4．無駄話と淫靡の回避

預言者は述べました：　あなたのうちの誰かがサウムをする日は、無駄話（アル・ラファス）を話さなければならず、喧騒と大声をあげてはなりません。もし誰かが虐待されたり争いを持ちかけられたら、私はサウムを行っています　（合意）

と言いなさい。預言者は言いました：　偽のスピーチと虚偽の行為を破棄しない者は、アッラーは飲食物を彼らの為に破棄する必要はありません．（アブ・ダウードの伝承）

5.全能のアッラーへの礼拝の強化

クルアーンからの朗誦と全能のアッラーの唱念と夜の礼拝に立つこと、荘厳なる夜に立つこと、毎日の任意のサラートを行うこと、慈善を施すこと、正義の道に執拗に努力し、斎戒している者へイフタールを供給することと小さいハッジを行うこと、ラマダン月の善行は重々に褒章されます。

イブン・アッバスは伝えました：　預言者は最も寛大な男性でラマダン月にはさらに寛大になり、ジブリールが彼に出会った際は、ラマダン月は毎晩、ジブリールとクルアーンを修正したものでした。本当に預言者はジブリールと出会った時は、吹く風よりもさらに寛大になりました．　（ブハーリの伝承）

6.特にラマダン月の最後の10日間の間に礼拝に務めること

アーイシャ（アッラーが彼女に悦びますように）は述べました。；　ラマダンの最後の10日間がやって来ると、預言者は元気を出して、腰巻を締めて、夜を礼拝に費やし、家族を（夜間）に起こしました　（ブハーリの伝承）

サウム中の忌まわしい行為

1.口を漱ぐことと鼻からの水を吸い込む洗浄の過度

これは水が喉に入ることへの恐怖に起因するものです。預言者は述べました。:そして（洗浄の為に水をすすり入れる間）サウムを行っている時を除いて、水を引き入れる （アブ・ダウードの伝承）

2.貪欲なキス

キスすることはもしサウムを行っている者が、射精や性的衝動の切迫の可能性を恐れるなら、薦められません。また性的衝動を起こさせる何事も避けることが必要です。しかし、サウムを無効にする衝動がコントロールできると確信するなら、キスをすることは許可されます。アーイシャ（彼女にアッラーが悦ばれますように）は伝えています。； 預言者はサウムをしている中、キスや抱擁を交わしていたものでした。更に、彼は衝動をコントロールする最良の人です （合意）

こうしたことが理由で、老人とは違って若者の間では抱擁は好まれません。アブー・フライラの伝承によると； ある男は預言者がある男がサウムの途中に彼の妻を抱擁することを許可したこと、しかし他の男には他の時には賛成しなかったことに関して尋ねました。そして許可した者は年老いた男で、賛成しなかった者は若者であったことが明らかになりました （アブ・ダウードの伝承）

サウムを無効にするもの

1.ラマダン月の昼間に故意に飲食すること

全能のアッラーは申されました：｛また白糸と黒糸の見分けられる黎明になるまで食べて飲め。その後は日暮れまで斎戒を全うしなさい｝ [雌牛章:187節]

人間の性質上の為にサウムを解除すること

例えば、パン屋さんや、退屈で厳しい雇用の労働者はサウムから免除されません。何故ならサウムは他の人にもそうであるように、彼らにとっては義務であるからです。

重要点:

うっかり飲食した者のサウムは本格的で許容されます。しかし、思い出したら直ぐに、それ以上の消費は止めることが義務です。預言者は述べました: サウムの最中に忘れて飲食した者は誰でもサウムを完了しなさい。何故ならその者に飲み物を与えたのはアッラーだからです （ムスリムの伝承）

斎戒は口や鼻:を通じて喉にはいるもの食べ物や飲み物の意味を示すものは何によっても無効となります。:食べ物や飲み物の意味を示すもの。

例えば、栄養素の静脈内注射です。

しかしもしそれがペニシリン注射のような治癒的注入がある場合は、サウムを無効にはしません。何故なら、それは食物の形態、飲み物やそれらの誘導体にはみなされないからです。

栄養剤はサウムを無効にします。

ペニシリンの注射はサウムを無効

他にも特別な条件が必要な喘息患者の為のサウムを無効にしない喘息用吸入器や他の医療用変異体のようなものがあります。

喘息患者の為の吸引機はサウムを無効にしません

アイライナーの使用はサウムを無効にしません nabe.

アイライナーの使用、目と耳の薬またはその種のものはサウムを無効にしません。何故ならそれらのものはサウムを無効にしないという証拠はないからです。

さらに、目は通常は飲食物への道ではありません。

これは耳と鼻の薬にも当てはまります。ただ鼻は胃へと直通なので、サウムをする者がウドゥーの最中に水を鼻にすすり入れる過度に関する預言者の制限の為に鼻の薬には注意することが重要です。

口の中に残った食べ物はサウムを無効にしません。

喫煙はサウムを無効にします

2. 性行為

至高のアッラーは仰せられました： ｛あなたがたは斎戒の夜，妻と交わることを許される｝［雌牛章:187節］

ですので、サウムの途中に性行為を行った者はサウムを無効化しました。そして従ってその日の（サウムが無効になった日）サウムを後程行わなければなりません。その上で、奴隷を解放することで償わなければなりません。それが不可能であれば、次のように表示された順序で次のいずれかを実行する必要があります。；連続で2ヶ月サウムと行うか60人の貧者に施します。アブー・フライラによると彼は述べました；ある男が預言者の元へやって来て言いました。：「私は破壊されました。」預言者は答えました。「あなたに何が起こったのですか？」その男は言いました。：「ラマダン（サウム）中に私は私の妻と性行為をしました。」預言者は尋ねました。「あなたは奴隷を解放できますか？」預言者は続いて尋ねました。「あなたは2カ月連続でサウムをすることができますか？」その男は尋ねました。「いいえ」さらに預言者は尋ねました。「60人の貧者に施すことができますか？」彼は言いました。「いいえ」そこで預言者はその男に座るように言い、彼は座りました。しばらく後に大型計量容器（アル・アラク）一杯のナツメヤシが贈り物として預言者の元へ運ばれてきました。預言者はそれを彼に差し上げて言いました。」その男は答えました。「私は私と私の家族より貧しい人へ施すのですか？」そこで預言者は大臼歯が見えるほど激しくわらいました。そして預言者は言いました。「それであなたの家族を養いなさい．（合意）

これは罪の償い（カッファラ）の配列です。もしサウムができるのなら、60人の貧者に施す必要はなく、奴隷を解放する事ができる者がサウムを行うと同様に間違っています。

それはもし女性が夫を誘う、もしくは夫の衝動に応答するとしたら、女性にも罪の償いは必須になります。しかしもし女性が余儀なくされたなら、サウムは無効となり彼女のサウムが無効となった日を罪滅ぼしなしに、その日のサウムを後程補うでしょう。

性交の意味に関連:意図的な射精、もしサウム中の男性が妻にいそいそとキス、自慰、その他を行い、射精した場合は、その男性のサウムは無効となります。何故ならその欲望はサウムの行為と矛盾し、それ故に償うことなくその日のサウムを補わなければなりません。原文では特別に言及している為、罪滅ぼしは実際の性行為の時のみ必要とされます。

もし夫が妻を愛撫し、彼女に触れ、または思いがあり、マディー（初期の精液）が排出された場合は、夫のサウムは無効です

何故ならマディーによってサウムが無効になるという証拠の文章はないからです

サウム中の者がもし睡眠を摂り夢精する、もしくは願望なしに射精、病気が原因の場合はサウムは無効にはなりません。何故なら意図的に射精しようと選択したのではないからです。

もしジュヌブ（性行為による儀式的な不純）で目覚めたら、性行為またはファジャールの前の夢精の結果のサウムは有効です。夜明けのサラートをジャマア（モスクでの合同）を行う為のグスル（主要な儀式的不純に続く儀式的な洗浄）を行わなければなりません。:アーイシャが伝承したところによると、アッラーのみ使いは時折妻たちと性行為を行った後のジャナバ（儀式的不純）の状態でファジャールの時間に起きていたものでした。彼は風呂に入りサウム（サ一回）を行いました。

3. 意図的な嘔吐

定義:口を通じて意図的に胃の中にある飲食物を嘔吐すること。もし、しかし、意図せずに嘔吐したいという欲望に追い抜

かれたなら、そのサウムはまだ有効です。預言者は言いました。: 意図なしに嘔吐する者は誰でも、そのサウムを補う必要はありません。しかし意図的に嘔吐する者は誰でも、サウムの日数を後程補わせなさい

4.ハイド（月経）の血の放出とにファース（出産後の出血

女性がハイドの血もしくはナファスー日没の最後の時間でさえーサウムを解除しなければならず、その日のサウムを後程補わなければなりません。

斎戒(サウム)の章

利点

学者の大多数はヒジャーマ（吸角法）（特別な道具を使用して体内から血液を引くこと）はサウムを無効にしないという意見です。預言者はサウム中にヒジャーマを施行しました。アビ・サイード・アルーコドリの伝承によると「アッラーのみ使いはサウム中の者のキスとヒジャーマを有効としました。しかし弱点の為に嫌悪されました。アナス・イブン・マリクは尋ねられました。「サウム中の者のヒジャーマを嫌悪しましたか？」彼は答えました。「いいえ、弱くなるという理由以外では

傷跡からの出血、歯の抽出から、鼻血からまたサンプル抽出の為の血液採取を通じて、または血液の寄付はサウムを無効にしません。

第三課

ラマダンのサウムの解除の許可される理由と逃したサウムの日数の補い

目 次

ラマダン月にサウムを解く許可された理由

1．病気

病人はラマダン月に斎戒を解くことが許可されます。至高のアッラーは述べました：｛だがあなたがたのうち病人，または旅路にある者は，後の日に（同じ）日数を（斎戒）すればよい.｝[雌牛章:184節]

サウムの解除が許可される病気は、もし病人がサウムをすれば深刻な痛みを起こしたり、それに繋がるものです。

病人が斎戒を解くこと

もし病人が斎戒を解き、その病気が治癒する予想がつくなら、逃した日数を斎戒するのが必須です。至高のアッラーは仰せられました：｛だがあなたがたのうち病人，または旅路にある者は，後の日に（同じ）日数を（斎戒）すればよい.｝[雌牛章:184節]

しかしもし病気の治癒が期待できない場合は、例えば疾患または老人が永久にサウムをする能力がない場合、１日につきサアーの半分の米、もしくはコミュニティー内の一般的な食品を(サアーは平均的な男性の４度の一握りの尺度です。1サアーはおおよそ2.25キログラムで、従って一日に施す良はおおよそ1キロと25グラムです）人の貧者に施さなければなりません

2．旅行

旅行者はラマダン月にサウムを解除することが許可され、逃した日の日数を後程斎戒します。全能のアッラーは申されました：　{だがあなたがたのうち病人，または旅路にある者は，後の日に（同じ）日数を（斎戒）すればよい}［雌牛章:184節］

アル・カスル（礼拝中のスジュードの回数の削減）（サラート）が許可される同じ距離は、人々の習慣による旅行と許可される形の旅行と知られていれば、サウムの解除も許可されます。もし、しかし、それが罪のある旅行もしくはサウムから解除される為の旅行であれば、サウムの解除は禁じられるでしょう。

しかし、もし旅行者がサウムを決心するなら、それは有効になるでしょう。これはアナス・イブン・マーリクの伝承によるもので、彼は述べました；　我々はサウムをしながら預言者と旅行したものでした。そしてサウムをしている者達はサウムを解除した者達を罵倒したり、見下したりはしませんでした．（ティルミズィーの伝承）

しかし、この許可はサウムがその者にとって重荷であったり痛みを起こさないことが条件です。これは何故なら預言者が旅行中のある日、厳しい暑さの為にある男がサウムが重荷になった（酷く弱体化して）ところを見ました。そしてそのような人々が彼の周りに集まりました。それ故に、預言者は述べました：旅行中のサウムは正義の一部ではありません(ティルミズィーの伝承）

3．妊娠と授乳

妊婦と授乳中の女性でサウムを行うと重荷になるという恐れがある者は、サウムを解除することが許可され、病人の場合のようにサウムの日数を後程補います。預言者は述べました；　全能のアッラーは旅行者のサウムとサラート（毎日の礼拝）の一部を和らげられ、妊婦と授乳中の女性のサウムを和らげられました．（ティルミズィーの伝承）

しかしもし自分の子供や胎児のみへの負担を恐れるなら、サウムを行わなかった日の日数に付き1人に施し、その日数分を後程サウムしなければなりません。イブン・アッバスは述べました：　妊婦と授乳中の女性に関しては、もし子供へのサウムの負担を恐れるなら、サウムを逃した日数を後程サウムし、逃した日の日数分、貧者に施します．（アブ・ダウードの伝承）

4．月経と産後の出血

しかし月経中の女性もしくは出産後の出血はサウムが禁じられているので、サウムを解除する義務があります。もし、しかし、サウムを行ったなら、それは有効ではなく:サウムを逃した期間と同等のサウムを返済しなければなりません。アーイシャ（アッラーが彼女に悦んで下さいますように）は何故月経中の女性が逃した礼拝ではなく逃したサウムを支払うのか尋ねました。彼女は述べました；それ（出産後の出血と月経の出血）は私達に降りかかり、逃したサラート（礼拝）ではなく、我々は逃したサウムを支払うように命じられました（合意）

逃したサウムの支払い

もしムスリムがラマダン中有効な理由なしに、サウムの日を逃したとしたら、アッラーに懺悔し、かれの許しを得なければなりません。何故ならその犯罪は偉大であり、忌まわしい行為だからです。彼はまた反省と許しを請うことに加えて、サウムを行わなかった日数をラマダン後に補わなければなりません。最初の段階でサウムを解除する資格はなく、正確な時間の日々をサウムしなければならなかったので、学者の最も正確な見解によれば、ここでラマダン後直ぐ翌日（複数日）にサウムの日数を補う必要があります

もし女性のハイド（月経）と二　：私はラマダンのサウムを逃した日をシャアバン（次のラマダンの前の最後の月）まで補うことができませんでした。」助手の語り手のやひやーは言いました。「彼女は預言者に仕えることに忙しくしていました．（合意）

しかし逃したサウムの日々を早急に支払うことが好まれ、高く奨励されています。何故ならそうして債務から解放されるからです。そしてサウムから妨げるような病気やそのような予期せぬ何かの為に、そうすることは人の為にも安全です．

もし次のラマダンまでに逃した日数を補うことを延期し、その延期の理由があるなら、またその同じ理由がまだ続くなら、次のラマダンの後にその日数を補う必要があります

しかしもし理由もなく次のラマダンまでに日数を補うことを延期させるなら、大多数の学者の見解によると、その国の主食である1サアーの半分（約1.5キロ）を日数分貧者にふるまうことが義務とされます。ハナフィスとタヒリスはしかし貧者を養う必要はないという見解です。逃した日々を補う為にサウムは連続して行う必要はありません。連続した日もしくは別の日に日数を斎戒する事ができ、両方が正解です：｛だがあなたがたのうち病人，または旅路にある者は，後の日に（同じ）日数を（斎戒）すればよい｝［雌牛章:184節］

崇高なアッラーはこれらのサウムの日々を連続である必要はないと言います。もしそれが全能のアッラーが明らかにした条件であれば

ラマダンの逃した日々を補わなければならないなら、自発的なサウムを行う前にそのサウムを行うべきです。何故なら、サウムの義務はより偉大で重要だからです。しかしラマダン中の義務的なサウムの日を補う前に任意のサウムが許可されます。もし任意のサウムの日がその美徳の為に、逃したくない場合です。

例としてはムハッラムの10日目、

アラファの日、シャウワルとそのような6日間のサウム、

ラマダンのサウムの日を補う機会は次のラマダンの前までの6日間のサウム、

ラマダンの日数を補う為の機会は次のラマダンまであるからです。

しかし、早急にラマダンの日数を補うほうが良いです。

有効な理由で死ぬまでにラマダンの日数の補いを延期する者

は誰でも、意図的にサウムを残したのではないので、彼に反対はありません。しかしもし、理由がない場合は、ラマダン中にサウムをしなかった日数の貧者に施しますが、もしそのサウムがナスル（もしなにかが起こったらアッラーの為にサウムすると誓うこと）であれば、かれの、後継ぎは彼の変わりにサウムしなければなりません。数人の学者はもしある者が死にラマダンからの補う日数がまだあったとしたら、ラマダンの義務のサウム、もしくはナスルサウムまたそのようなものであろうと、彼の後継ぎは亡くなった者の変わりにサウムするべきです。アーイシャ（彼女にアッラーが悦んでくれますように）の伝承によるとアッラーのみ使いは述べました：　亡くなり（ラマダンに逃した日数を）サウム（斎戒）しなければならない者は、保護者（後継者）が彼の変わりにサウム（斎戒）しなければなりません　（合意）

；イブン・アッバス（彼がアッラーに悦んでもらえますように）は述べました：　ある男が預言者へやって来て言いました。「アッラーのみ使いよ！私の母は亡くなり.（合意）

第4課 義務ではない（任意の）サウム

義務ではない（任意の）サウム

これらは至高のアッラーに近付く為の任意のサウムの全ての形態を含みます。

義務以上のサウムは素晴らしい美徳と壮大な報酬を含みます。クドゥスイーのハディースはアブーフライラによって報告されました。預言者は述べました； 本当にアーダムの息子によって全ての正義の行為は10から700倍に報われます。しかし全能のアッラーは「サウムは例外です。それは何故ならサウムは我の為であり、それに応じて（サウムする者）に報酬を与えるでしょう （合意）.

目 次

任意のサウムが推奨される日

1．シャウワル月の６日間（ラマダン月後）

預言者は述べました。：ラマダン月にサウムを行い、その後シャウワル月の6日間に続く者は誰でも、完全な1年のサウムが一緒に記録されることでしょう （ムスリ承）

もしそのサウムを連続して行おうが、1カ月の間に行なおうが同じです

2．ズルヒッジャ月の最初の9日間（イスラーム暦の12か月目）

預言者は述べました。：「これらの日（12カ月の初めの10日間）以外に善行を行うことをアッラーがお悦びになる日はありません。同胞は問い合わせました：アッラーの為のジハード（闘い）についてはどうですか？」預言者は言いました。「アッラーの道（報酬次第）でのジハードさえも、但し生命と富をかけてアッラーへの道へと出かけ、それらのいずれかとも一緒に戻らなかった者以外は. （ブハーリの伝承）

しかし大巡礼を行わなかった者達にとっては、これらの日で最も重要なのはアラファの日です。アラファの日はイスラム暦の12カ月目の9日目です。預言者は言いました： アラファの日のサウムに関しては、私は全能のアッラーが過ぎ去った1年と来たる1年の罪をお許しになることでそれを褒賞して下さると期待します. （ムスリムの伝承）

東京モスク

3．アーシュラの日のサウム

アーシュラ（ムハッラムの10日間）

ムハッラムの10日目、全能のアッラーの月

これは何故なら預言者は述べたからです：　アーシュラの日にサウムする為に、私は全能のアッラーがその以前の1年の罪を許して下さると期待します　（ブハーリの伝承）

この日にサウムをする理由はアブドゥッラ・イブン・アッバスの権限によると、彼は述べました。；　預言者はマディーナに到着すると、アーシュラの日にユダヤ教徒がサウムしているのを見つけました。そして彼は（何故その日にサウムを行うのか？）質問しました。彼らは答えました。「これは良い日です。全能のアッラーがイスラエルの子供を敵から救った日、そして預言者ムーサは（彼に平安あれ）その日の後日にサウムを行いました。」その時預言者は言いました。「私はあなたよりムーサに権利があります。」そして彼はサウムを行い、ムスリムにその日にサウムを行うように命じました　（ムスリムの伝承）

イマーム・ムスリムの伝承によると、預言者は述べました：　もし私が来年までに生き残るなら、9日目にサウムを行うでしょう（ムスリムの伝承）

4．毎月の輝かしい日々

輝かしい日々：

これはイスラームの毎月の13日、14日と15日目です。この日は月光によって輝く夜なので、輝かしい日々と言及されます．

アブドゥル－マーリク・イブン・アル－ミンハールは父親から、預言者が「輝かしい」日々の3日間を彼らにサウムするように命じたと伝えました：　このサウムは１カ月間のサウムに相当します．（イブン・ヒッバンの伝承）

5．毎週の月曜日と木曜日のサウム

アブー・フライラは伝えたところによると預言者は述べました。：善行は全能のアッラーによって毎週月曜日と木曜日に報告され、私はサウム中に私の善行が報告されるのを好みます．（ティルミズィーの伝承）

6．１日おきのサウム

任意のサウムの最良の形は預言者ダウド（彼に平安あれ）のサウムです。彼は1日サウムしたら、次の日に解除しました。アブドゥッラ・イブン・アーミル’は預言者が次のように述べたと報告しました：　サウムの最良の形はダウードのサウムです。（彼に平安あれ）：彼は1日サウムしたら次の日に休んだものでした．（アン・ナサーイの伝承）

7．ムハッラム月のサウム（イスラーム暦の初めの月）

アブー・フライラーの伝承によると、預言者は言いました:　　ラマダン以外の最善のサウムはアッラーの月であるアル・ムハッラム月中にあります．（ムスリムの伝承）

8．シャーバン月のサウム（イスラム暦の８ヶ月目

「アッラーの預言者よ！私はシャーバンの月ほどにサウムを行っている月を他に見たことはありません。」預言者は答えましたt:　　それはラジャッブとラマダンの間の月で、その月についてはあまり沢山の人は気が付かず、そしてその間に善行は世界の主に返却されます。したがって私はサウムをしている間に、私の善行が全能のアッラーの元へ返却されることを好みます．（アン－ナサーイの伝承）

預言者のハディースに含まれる禁止に関して、彼は述べました:　　シャアバンが半分までになると、ラマダンまでサウムを行ってはなりません（イブン・クザイマの伝承）

これは意図的に1カ月が半分過ぎたことに関して、もしくはラマダンとシャアバンを結びつけるかのどちらかの禁止を意味します。しかし、1カ月の最初の部分の間のサウムの後で第2の半分のシャアバンをサウムする者は、その月をラマダンとサウムと結びつけません。すると彼のサウムには間違いはありません。サウムが禁止の日とサウムの忌まわしい行い

初めに:サウムが禁止される日

1.イードの2日間にサウムを行うことは不許可です。:アブー・フライラはアッラーのみ使いが2日間:アドハーとフィトルの日にサウムすることを禁じました。　roja Fitr　qede e kirine.（ムスリムの伝承）

2.アイヤムット・タシュリーク、イードゥル・アドハー（ズルヒッジャの11日、12日と13日目）の3日後にサウムを行うことは許可されていません。アッラーのみ使いは言いました: タシュリークの日々は飲食の日々です　（ムスリムの伝承）

しかしハッジを行っている者は、もしキラーンもしくはタマットゥハジを行っていて犠牲動物が見つからないならこれらの日々にサウムを行うことができます。クルアーンの雌牛章196節で説明されています: ｛またあなたがたが故障もないのに小巡礼をして，巡礼までの間を楽しむ者は，容易に得られる犠牲を捧げなければならない。もしそれを捧げることが不可能な時は，巡礼中に3日，帰ってから7日，合せて10日間（の斎戒）をしなさい｝［クルアーン雌牛章196節］

3.ヤウムル－シャク（疑惑の日）、空に三日月の観測を妨げる雲もしくは霧がある日に、その日がシャアバンの最後の日、もしくはラマダンの最初の日か疑われる日にサウムする事は許可されません。アンマールは述べました:　　疑いの日にサウムを行う者は誰でもアブル・カーシム（ムハンマド）に背きました。．（ティルミズィーの伝承）

第２:サウムの忌まわしい行動

1.ラジャッブをサウムの為に選ぶのはマクルー（嫌われる）です。何故ならそれはジャヒリーヤ（イスラームの前の無知の時代）で、その人々はその月をサウムによって尊び、その慣習の復活になるからです

2.金曜日をサウムの日として選ぶのはマクルー（嫌われる）です。何故なら預言者様はそのように禁じたからです。アブー・フライラはアッラーのみ使いが次のように述べたと伝えました:あなたがたの誰も金曜日にサウムするべきではありません。（１日）前後にサウムしない限りは（ムスリムの伝承）

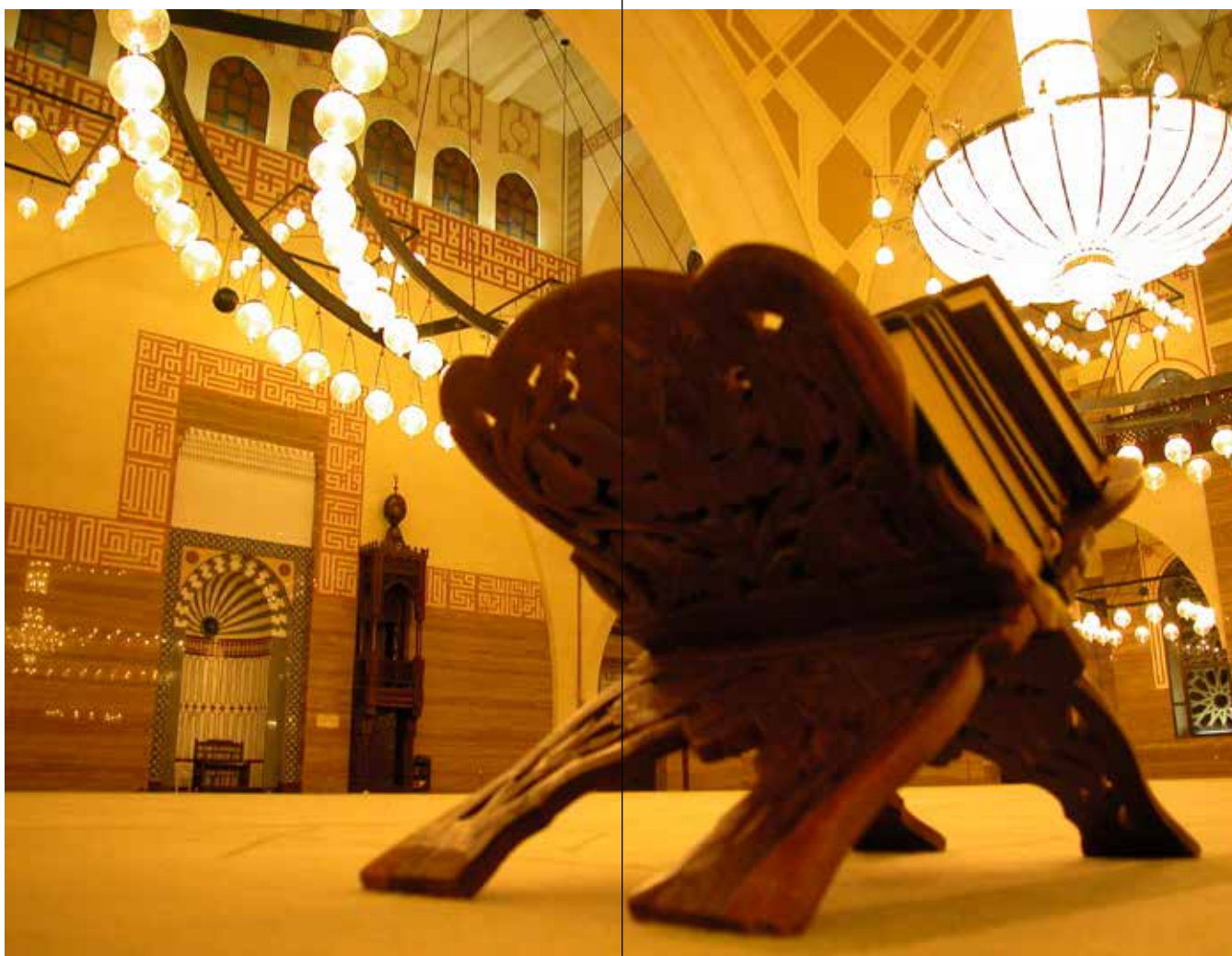
3.ウィサール、間の休みなしに途切れることなく毎日サウムすることはマクルーです。アブドゥッラ・ビン・オマルはアッラーのみ使いはウィサールを禁じたので預言者はウィサールを禁じました。彼ら（預言者の同胞の数人）は言いました。「しかしあなたは途切れることなくサウムしました。」そこで彼は述べました: 私はあなたのようではありません。私は食べ物を与えられ、アッラーによって飲み物を提供されました　（合意）

説明

1.礼拝の為に、ムスリムはアッラーの法律に準拠する必要があります。禁じられた日にサウムをしたり、預言者が行わなかったサウム、例えばラジャブの２７日目もしくはシャアバンの真ん中の日、を採り入れるのは禁じられます。預言者は述べました：　イスラム（私達の事柄に、イスラームの部分ではないいくつかの事項を取り入れる者は誰でもそれを却下されるでしょう。（ムスリムの伝承）

2.ムスリムは異教徒の儀式を崇拝することは避けます。したがって彼らはサウムやまたそうでなければ、異教徒が崇拝する崇拝行為への献身を示してはなりません。

サウムに関する医療の視点

サウムはいくつかの肌の病の治療に効果的です。これは何故ならサウムは血液の中の水の割合を減少させ、したがって肌への比率を可能にします。これはそれゆえに身体の幾つかの微生物の存在に起因する幾つかの一般的な疾患に対する身体の免疫力を改善します。

斎戒(サウム）の章

第5課 カドルの夜

目 次

何故カドルの夜と名付けられたか？（力・王座）

1.これはそれ（その夜）がクルアーンの啓示とその中の天使、祝福、慈善と許しの降臨の為に高い地位にあると意味します：｛かれらが「アッラーは人間に何も（啓示を）下されていない。」と言うのは，アッラーを尊崇すべきように，尊崇していないからである｝[家畜章９１節]

2.一部の人々は言いました。：「アル・カドルは「制限」を表す」これは全能のアッラーの御言葉からわかります；｛また資力の乏しい者には，アッラーがかれに与えたものの中から支払わせなさい｝[離婚章:7節]

ここで言う制限とはそれがどの夜に起こるのか知っていることを隠すことを意味します.

3.一部の人々は言いました。：「アル・カドルは「定め」と意味し、アッラーはその夜に次の年の事柄を下すという意味です。これは全能のアッラーのお言葉によるものです；｛その（夜）には，英知に就いて凡ての事が明確にされる｝[煙霧章：4節）

ライラトゥル・カドルの徳と位置

1.クルアーンはその夜に啓示されました。

全能のアッラーは申されました：｛本当にわれは，みいつの夜に，この（クルアーン）を下した｝[みいつ章:1節]

2.これは1000の月より良いです

全能のアッラーは申されました：｛みいつの夜は，千月よりも優る｝[みいつ章:3節]

これは:ライラトル・カドルに行われたどの善行の報酬も、ライラトル・カドルを含まない1000の月に行われたそれら（善行）の報酬よりも良いものである:という意味を表します

3.そこで天使とアル・ルーフ（ジブリール）が下降します。

全能のアッラーは申されました：｛（その夜）天使たちと聖霊は，主の許しのもとに，凡ての神命を齎して下さる｝[みいつ章:4節]

アブー・フライラの権限によると、預言者は述べました：　ライラトゥル・カドルはラマダンの27日もしくは29日目の夜に下り、天使たちはその夜に小石の総数よりも地球上にいるでしょう（イブン・クザイマの伝承）

4.この夜は平和に溢れています

全能のアッラーは申されました；　｛暁の明けるまで，（それは）平安である ｝［みいつ章:5節］

5.これは祝福の夜です。

全能のアッラーは申されました；　｛本当にわれは，祝福された夜，これを下して，（悪に対して不断に）警告を与え（ようとす）るものであろ｝［煙霧章:3節］

6.その中で毎年の事項が下されます．

全能のアッラーは申されました；　｛その（夜）には，英知に就いて凡ての事が明確にされる｝［煙霧章:４節］

7.その中で礼拝に立つ者、信仰しアッラーからの報酬を期待する者は、過去の罪が許されるでしょう

預言者は（彼に平安と祝福がありますように）は述べました：ライラトゥル・カドルに礼拝の為に立ち上がる者は誰でも、全能のアッラーからの報酬を期待し信じる者は、過去の罪が許されるでしょう（合意）

ライラトゥル・カドルの実際の日時

全てのムスリムがラマダンの最後の10日間、特にその期間の奇数の夜（例:21日、23日、25日、27日、29日）のに努力するよう、全能のアッラーはライラトゥル・カドルの知識を隠します。預言者は述べました：　ライラトゥル・カドルをラマダン月の最後の10日間の奇数の夜に探しなさい　（合意）

ライラトゥル・カドルに関する幾つかのアハディースの勉強後、学者の数人はその夜は奇数の夜の間に交差しますと言いました。

ライラトゥル・カドルの推奨された行い

1.アル・イアティカーフ（礼拝の為の隠居

アル・イアティカーフはラマダン月の最後の１０日間でライラトル・カドルに限られません。アーイシャ（彼女がアッラーに悦ばれますように）は預言者が次のように伝えたと報告しています；預言者はラマダンの最後の10日間に礼拝を行う為彼自身隠居していたものでした　（合意）

2.夜間に礼拝に立つこと、信仰しアッラーからの報酬を期待する（イイマナン・ワフティサーバン）：

預言者は述べました：　ライラトル・カドルの間に礼拝に立ち、信仰して全能のアッラーからの報酬を期待する者は誰でも、過去の罪が許されるでしょう　（合意）

3.アッラーへ祈ること

アーイシャ（彼女がアッラーに悦ばれますように）は預言者に次のように述べたと伝えています。：　アッラーのみ使いよ！もしライラトル・カドルを目撃する祝福を受けたとしたら、何という礼拝にすべきでしょうか？」預言者は答えました。：「アッラーフンマ・インナカ・アフウウン・トゥヒッブル・アフワ・アンニ」と言いなさい。意味　（ティルミズィーの伝承）

4.礼拝に務める為に家族を起こすこと

アーイシャ（彼女にアッラーが悦んでくれますように）は言いました；（ラマダンの）最後の10日間が来る時、預言者は自身を発揮してイザール（腰巻）を締め、夜の礼拝に務めて夜間に彼の家族を起こしました．（ブハーリの伝承）

ライラトル・カドルの印

1.ライラトル・カドルは暑さも極寒もない輝かしい夜です

ジャービルはアッラーのみ使いが次のように述べたと伝えました：私はライラトル・カドルのがどの日であるか見せられました、そしてその後その日がどれであるか忘れるようにされました、しかしそれは最後の10日の夜です。それは自由で輝かしい（バラジャトゥン）そして、暑すぎもなく寒すぎもありません （イブン・フザイマの伝承）

2.次の朝に光線なしに昇る太陽

ウバイ・イブン・カアブは述べました。ライラトル・カドルについて尋ねられた時こう答えました：　アッラーのみ使いが教えて下さった印の中に、その日太陽は光線なしに昇るとあります

他の伝承でムスリムは述べました：　太陽は光線なしに輝き、昇ります （ムスリムの伝承）

案内

1.ラマダンの最後の10日間は、これらはその年の最高の夜なので、ムスリムは豊富に様々な崇拝行為を行うべきです。.

2.ムスリムは高潔な時間と有益な季節を、アミューズメントや遊び、買い物や不要なものとみなされることをしたり、うろついて無駄にするべきではありません

第６課 イアティカーフ

言語的な意味は：

何かの持続性とそれに自身を閉じ込めること

イアティカーフのシャーリアによる意味は：

全能のアッラーを崇拝する目的の為にマスジッド（モスク）に隠遁すること

目 次

イアティカーフの許可制

イアティカーフは最も高貴な行いの１つで従順の素晴らしい形です。アーイシャ（彼女にアッラーが悦んでくれますように）は言いました；預言者は亡くなるまでラマダーンの最後の１０日間に（モスクに）籠っていたものでした（ブハーリ）

イアティカフは私達以前の者達に加えられたように私達にも下されまさした：｛またイブラーヒームとイスマーイールに命じた。「あなたがたはこれをタワーフ（回巡）し，イアテカーフ（御籠り）し，またルクーウ（立礼）し，サジダする者たちのために，わが家を清めなさい｝［雌牛章:127節］

イアティカーフの規定

イアティカーフは推奨されていますが義務行為ではなく、いつでも行うことができます。しかし、イアティカーフの最高の形はラマダーンの最後の10日間の間に行われます。これは何故なら、預言者が熱心にラマダーンの最後の10日間の間にそれを行ったからです.（ザードゥル・マアード）

イアティカーフを行う条件

1.ニーヤ（意図）

イアティカーフを行う者はアッラーに近付く為にモスクの中に滞在するという意図を持たなければなりません。これは預言者のお言葉によるものです：　本当に全ての行いは意図によって判断されるでしょう（合意）

2.イアティカーフを行っているモスクがジャマア（合同）礼拝を行う場所であること

それはモスク以外の場所で行われることは許可されません：｛マスジドに御籠りしている間，かの女らに交わってはならない｝雌牛章：187節］

これは何故ならサラートを行うことが義務とされる、もしくはジャマアサラートの時間の度に繰り替えしイアティカーフを去るように強勢される時、どのジャマアサラートもそのサラートの破棄を必要としない、モスクでのイアティカーフだからです。

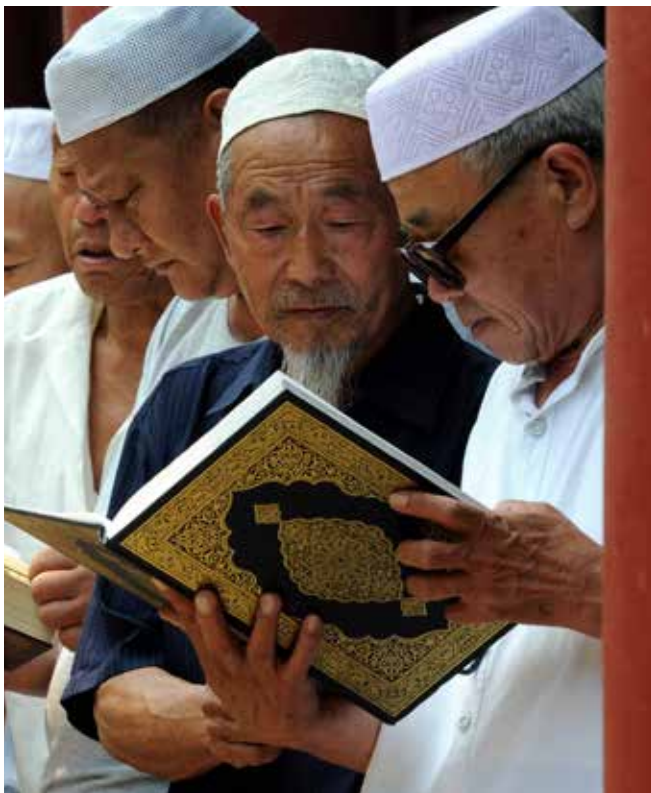
これは女性に有効ですが、しかしジャマアサラートが行われているかいないか不確かのモスクでイアティカーフを行うことは、それは女性のイアティカーフがフィトナ（反乱）にはならないことが条件です。

もしフィトナがイアティカーフを行うことからの結果であれば、そうすることは禁じられます。もしイアティカーフを行うモスクでジュムア（金曜）サラートが行われるのであればそれがより良いです。しかしそれはイアティカーフを行う条件ではありません

中央モスク

3.主要な儀式的不浄から自由であること

したがってジャナバ（儀式的不純）から清浄していない男、

もしくは出産後の出血もしくは月経の出血のどちらかである女性はイアティカーフを行うことが許可されていません。これは何故ならこれらの2つの項目の人々は不純である為にいつでもモスクに滞在することが許されないからで

サウムはイアティカーフの条件ではありません。

サウムはイアティカーフの初期条件とみなされます。何故ならアブドゥッラ・イブン・ウマルは彼の父、ウマルが預言者にこう言ったと伝えているからです。：「私は聖なるマスジッドゥル・ハラームに籠る事をジャーヒリーヤ（イスラムの前の無知の日々）の間にアッラーに宣言しました。」そして預言者は述べました：　私は聖なるマスジッドゥル・ハラームに籠る事をジャーヒリーヤ（イスラムの前の無知の日々）の間にアッラーに宣言しました。　（ブハーリ）そして預言者は述べました。　約束を守りなさい　（ムスリム）　もしサウムがイアティカーフの初期条件なら、ウマルによる夜間のお籠りは有効ではありません。その上サウムが禁じられているシャウワルの最初の１０日間に預言者がイアティカーフを行うことは創設されていました。更に、両方（サウムとイアティカーフ）は２つの別々の独立した崇拝の形です。したがって１つはもう片方の初期条件ではありません。

イアティカーフの期間

イアティカーフをどの日そしていつでもある期間の為もしくは間に行うことは許可されますが、イアティカーフは完全な昼間もしくは夜よりも短い間に行われるべきではないことが一番好まれています。これはその期間より短い間に預言者、彼の同胞がイアティカーフを行ったという事は預言者も預言者の同胞の誰からも記録されていないからです。.

ラマダンの最後の10日間のイアティカーフ

これがイアティカーフを行う最良の期間です。これはアーイシャのハディースで伝えられています; 預言者は全能のアッラーが彼の魂を引き抜くまでラマダーンの最後の10日間を崇拝の為にお籠りしていたものでした　（ブハーリの伝承).

イアティカーフを行う意図のある者は誰でも、その月の21日目のサラートウス - スブーフをイアティカーフを行うモスクで行い、次にお籠りに入るでしょう。アーイシャ（彼女にアッラーが悦んでくれますように。）は伝えました;　預言者は毎年ラマダーン月に、イアティカーフを行っていたものでした。:預言者はサラートウス - スブーフを行った時、イアティカーフの場所に入りました（ブハーリの伝承）.

イアティカーフはラマーダンの最後の日の日没で終了します。しかしイードの早朝までモスクを去る事を延期する事が勧められます。何故なら、それは初期のムスリム同胞がそう行っていたと記録されているからです

Hイアティカーフに潜む叡智

イアティカーフの目的は全ての現世の事柄から自由になり、全能のアッラーの崇拝のみに務めて集中することです。したがってイアティカーフを行う者はこの理由から全ての現世の事項から精神を自由にすることが命じられます。

イアティカーフの間の許可される行為

1.もし誰かがその者に食品を持ってくるなら、飲食などの必要性の為、モスクを去ること。またトイレに行く為に去る事も許可されます。アーイシャの伝承によると、次のように伝えています；預言者はイアティカーフを行っている間に、私に頭を近付けていたものでした。彼は人間の必要性の為以外には家には入りませんでしたが、私は彼の紙を梳く手伝いをすることが出来ました（ムスリム）

2.上記のハディースに示されたように、髪をとくこと

3.人々との利益のある議論に参加することと彼らのことについて尋ねること、しかしそれをし過ぎるのは良くありません。何故ならそれはイアティカーフの目的を否定するからです

4.彼を訪れる家族のメンバーや親戚を招いたり見送ること。サフィーヤ・ビントゥ・フイェイ、預言者の妻は言いました；　私は一度夜間に幾つかの事を議論する為に、預言者がイアティカーフを行っている間に、預言者を訪ねたました。その時、私が去ろうと立ち上がると、預言者は立って私のお供をしてくれました。（見送った（合意）

イアティカーフを無効にすること

1.その時が長いか短いかは関係なく、正当な理由なしに、意図的にモスクを去ること。　これはアーイシャ（彼女にアッラーが悦んでくれますように）は伝えています；　そして預言者は人間的な必要性以外にはその部屋に入りませんでした（ムスリム）　またイアティカーフの柱である、モスクを去ることは彼がモスクに滞在することに存続させません

2.夜間に行われた時でさえ、性行為

全能のアッラーは申されました：｛マスジドに御籠りしている間，かの女らに交わってはならない｝［雌牛:187節］

このカテゴリーに含まれるのは、自慰もしくは性行為なしに妻を抱くような貪欲な射精に繋がる全てです.

3.ムスリムはある特定の期間の間イアティカーフを行う意図を持ち、後程それを中断し、それを彼に払い戻すことは許可されます。アーイシャ（アッラーが彼女に悦んでくれますように）は伝えました；　もし預言者がイアティカーフを行う意図があったとしたら、彼はサラートゥスースブーの後に彼の隠居の場所（モスクのテント）に入りました。ある日、ラマダーンの最後の１０日間の為のイアティカーフを意図し、それは行われたのでテントが建てられるべきだと命じました。その後、ザイナブ（アッラーが彼女に悦ばれますように）（預言者の妻）は彼女のテントが建てられるように命じ、そのほかの預言者の妻達の数人も彼らのテントが建てられるように命じました。その後サラートゥスースブーの完了後、預言者はモスク内にある幾つかのテントを見ました。そして彼は質問しました。：「あなたがたは皆正義を意図しますか？」その後彼は彼のテントを閉じて、シャウワルの最初の１０日間にそれを支払うまで（その年の）ラマダーン月のイアティカーフを延期しました　（合意）

他の伝承では、彼はシャウワルの最後の１０日間に支払うまでと伝えられています。

４．病人を見舞うことと葬儀に参加すること

ムゥタキフ（イアティカーフをしている者）は祈りに専念している時は、病人の見舞いも葬儀への参加も行わない。